

会 議 録

会議の名称	第1回 茨木市地域公共交通会議
開催日時	令和8年5月29日(金) 午後4時00分開会 午後6時10分閉会
開催場所	市役所南館10階 大会議室
議長	葉 健人
出席者	(市長又はその指名する者) 酒巻 靖弘、岡田 直司、谷田 明夫 (一般乗合旅客自動車運送事業者) 野津 俊明 (一般乗用旅客自動車運送自動車運送事業者) 和田 泰典、庄司 拓也、森山 秀雄、花田 崇昭 (地域住民若しくは利用者の代表者) 小崎 功、角野 力、西谷 博嗣、塩田 修、池上 浩司、 中西 敏 (大阪運輸支局長又はその指名する者) 田中 郁代、中野 幸太 (道路管理者、大阪府茨木警察の代表者、学識経験者、その他市長が 必要と認める者) 白井 佑季(代理:丸地)、辻井 裕、 大山 広道(代理:中山)、猪井 博登、葉 健人 【21人】
欠席者	園田 修 【1人】
事務局職員	足立副市長、砂金建設部次長兼道路課長、谷山交通政策課長、 山脇交通政策課上席主幹、戸田交通政策課課長代理兼計画推進係長、 三浦交通政策課主査、佐藤交通政策課主査 今西教育総務部次長兼教育政策課長、坂元教育政策課主幹、 大池学校教育推進課長、山本学校教育推進課指導主事 【11人】
開催形態	公開
案件	(1) 会長及び副会長の選出について (2) 会議及び会議録の公開・非公開について (3) 諮問について (4) 地域公共交通会議について (5) 山間部の交通検討について
配布資料	(1) 茨木市地域公共交通会議規則

	(2) 茨木市審議会等の会議の公開に関する指針 (3) 諮問書 (4) 活発で良い議論ができる会議のために（中部運輸局） (5) 山間部の交通検討について (6) 配席図 (7) 委員名簿 (8) 茨木市附属機関設置条例
傍聴人	11人

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
葉 会 長	<p><b>1 開会 (足立副市長挨拶)</b></p> <p><b>2 案件</b></p> <p><b>案件 (1) 会長及び副会長の選出について</b> 委員の互選により、葉委員が会長に、猪井委員が副会長に決定。</p> <p><b>案件 (2) 会議及び会議録の公開・非公開について</b> 〔事務局より資料2を説明、質疑及び意見無し〕 原則、会議及び資料を公開。今後、非公開とすべき案件が発生した際は会議で非公開を決定する。会議録は、要点筆記で作成し、事務局が作成した案を会長が確認した後、公開。会議録中の発言者の委員名を表示。  傍聴者入場及び資料配布。</p> <p><b>案件 (3) 諮問について</b> 〔事務局より資料3を説明、質疑及び意見無し〕</p>
葉 会 長	<p><b>案件 (4) 地域公共交通会議について</b> 事務局より、説明を大阪運輸支局に依頼されたとのことである。田中委員から説明をお願いしたい。</p>
田 中 委 員	<p>資料4を説明する。自家用車の普及や少子高齢化による利用者の減少により、全国的に地域公共交通は厳しい状況にある。路線バスは独立採算制を基本としているが、公共性の高い事業であるため、採算性と安定供給の両立が求められ、道路運送法によって事業参入や運賃等が規制されている。 一方、採算性の確保が難しい地域や、交通事業者が存在しない地域において、自治体の関与を前提に、地域公共交通会議において合意形成が図られた場合、特例的に自家用有償旅客運送等の制度活用が可能になる。 地域公共交通会議は、地域にふさわしい交通手段を関係者で検討する場であり、誰かに任せるのではなく、皆で考えることが重要である。参加者それぞれの立場から意見を出し合い、地域の将来を見据えて議論することが求められる。近年は、乗合タクシーや自動運転など新たな輸送手段も検討対象となっており、誰のどのような移動を誰がどうやって支えるかという視点も踏まえた議論が重要である。 また、バス事業は運転士不足が深刻であり、今後は運行継続がさらに難し</p>

<b>議 事 の 経 過</b>	
<b>発 言 者</b>	<b>議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項</b>
	<p>くなる見込みである。利用者や地域住民にも、運転手の負担軽減や渋滞緩和、車内事故の防止など、公共交通を支える意識を持っていただきたい。</p> <p>公共交通は人々の生活を守る重要で大事な仕事というイメージアップも含めて皆さんと一緒に考えていきたい。</p> <p style="text-align: center;">〔説明内容に対して、質疑及び意見無し〕</p> <p><b>案件（５）山間部の交通検討について</b></p> <p style="text-align: center;">〔事務局より資料５を説明〕</p>
葉 会 長	<p>路線廃止の予定について、補足があればご発言いただきたい。</p>
野 津 委 員	<p>路線バス事業の環境は全体的に厳しい状況にある。輸送人員の減少が続いており、加えて、運転士不足への対応として待遇改善に係る人件費が増えている。昨今の社会情勢の影響もあり、燃料費の増大や、環境対策・安全対策への投資も必要。運賃を改定しているが、それらの必要経費を確保できていない。</p> <p>これらの事情から、採算性が悪い路線の運行内容見直しや、黒字路線であっても減便せざるを得ない状況である。当該路線は採算面で非常に厳しく、これまで減便により対応してきたが大きな赤字から脱却できず、今後の改善についても期待できない。利用も非常に少なく、長らくご愛顧いただいていた路線であり、大変心苦しいが、路線バスが担う状況にない事からやむを得ず判断した。</p>
葉 会 長	<p>バス事業者は公共交通事業者であるが営利企業でもある。運転士が減っている中、公共交通として一人でも多く人の移動を支えたいと思っているが、運転士が減っている状況で黒字路線を削ってまで維持している状況。やむを得ない理由で今回の一部廃止に至ったものと受け止めている。</p> <p>本日は、これらを踏まえ議論を進めていただきたい。</p>
西 谷 委 員	<p>当該路線（81系統）はもともと市中心部に行くための路線として存在していたが、無くなると行きたいところに行けなくなる。非常に大きな問題だと認識している。</p>
葉 会 長	<p>運輸支局にお伺いするが、2月に代替交通を決定し、4月試行を想定した事務局説明のスケジュールについて、試行できる施策はあるか。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
中 野 委 員	運行形態による。本会議で協議を調えた後、申請から承認までの期間に2ヶ月程度要する。利用者への周知等を含め、4月に試行するには遅くとも年内に概ねの内容を決めておく必要がある。
葉 会 長	どのような交通手段が良いかという事に対して絶対的な解は無い。できるだけ移動を束ね、需要を分厚くすることが重要なため、住民の皆様から、普段どのような場所によく行き、そこへ行くためにどのような移動手段が必要かご発言いただきたい。
小 崎 委 員	石河地区はサニータウンに近いので、サニータウンまで家族が送れば路線バスを利用できる。中長期になるかもしれないが、全国的にはスクールバスを活用している事例もある。それらを参考に通学バスの空き時間にコミュニティバスとして一般利用や観光客も乗れるようにする等、柔軟に利用対象を広げることで、山間部の活性化に役立てていただきたい。
葉 会 長	<p>今ある資源を有効に使おうというご意見であり、その観点は非常に重要。山間部は路線バスが減少しているが、山手台、彩都西及びアルプラザに目を向けると、まだまだ結構な数のバス便がある。そこまで出て行くことができればバスを利用できる環境にあると思う。</p> <p>また、現時点で中学生を対象にスクールバスが実施されているが、貴重な運転者やバス車両という資源が確保できているのであれば、有効活用しようというご意見である。</p>
角 野 委 員	<p>車作は、ダムパークの近くに位置している。日常の買物は自家用車で行く人がほとんど。土日はダムパークまでバスが来るため、車で移動できない人はダムパークまで徒歩で移動する方もいる。</p> <p>乗合タクシーやマイクロバス等の循環する交通手段がベストと考えるが、短期の対策として、山手台まで行けば路線バスを利用できるため、山手台に駐車場が確保されれば、より路線バスを利用しやすくなるのではないかと。</p>
葉 会 長	山手台をポイントに挙げていただいた。公共交通を乗り継ぐことができれば良いか自家用車もうまく使えればというご意見である。
西 谷 委 員	泉原の住民は、通勤・通学、買物、病院の外出が多い。移動手段はマイカー利用が大半。高齢者や学生には公共交通が必要。買物はアルプラザ、

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>通勤・通学は JR 茨木駅や阪急茨木市駅の利用が多い。</p> <p>今回の廃止により、JR 茨木駅や阪急茨木市駅にアクセスできなくなるため、早急な対策が必要と考える。これまではバス停までの移動を課題としていたが、その路線バスが不便になるという事であり、現実とのギャップが生じていることを懸念している。</p>
葉 会 長	<p>ご発言の要望と現実を埋め合わせる協議をするために本会議がある。</p>
塩 田 委 員	<p>上音羽の実験では、登録制・予約制のあい乗りタクシーを延べ 50 人が利用した。利用者から、気楽に利用でき、途中のバス停に停車しないため目的地まで早く行けると好意的な意見が多かった。自治会で配車係を担当し、週 2 日の対応は大変だったが、実験全体としては好評だった。</p> <p>把握している限り、バスが無くなると移動できないという人が、地区に 3 人いる。その内の 1 人は友人の外出に予定を合わせて、用事を済ませている。今後、免許返納が増えることも考えられるため、何か移動手段を増やしていただきたい。</p>
葉 会 長	<p>上音羽の実験時は、アルプラザに行かれ、満足されていると思うが、例えば、彩都西に行きたいといたご意見等はあったのか。</p>
塩 田 委 員	<p>最初は、ホームセンターや病院、歯医者、美容室など、色々意見があった。今回の実験は、アルプラザの往復ということで了解を得た。</p>
葉 会 長	<p>要望を聞くと止まらないという事は私も経験がある。アルプラザが落としどころとして、成功だったと受けて止めておく。</p>
池 上 委 員	<p>安元は、令和 5 年に実施した自治会アンケートで 25 件回答があり、大まかなニーズを確認した。去年は、特に移動に困っている 4~5 人に市とヒアリングを実施し、どのような対策が良いか検討のうえ、特に困っている方々を中心に「相乗りタクシーの会」を結成した。</p> <p>集会所からサニータウンまでの相乗りを実験したが、利用は無かった。理由として料金が最も大きな問題。片道 2000 円以上かかるため、日常の買い物にそれだけのお金を払うのかという問題。上音羽の実験と一番違う点は有償か無償かという部分。実験した制度で本格運用されると納得できないという思いも地域にはあったと思う。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
葉 会 長	<p>さらに便利になれば、色々な所に公共交通で行きたいという人はいると思う。表面化していないが、潜在的なニーズはあると考えている。</p> <p>短期の対応について、今の中学校スクールバスを小学生も利用できるようにする必要がある。地域に2人の中学生がおり、来年から高校生になるが、通学手段に悩んでいる。</p> <p>安元の実験は、貴重な取組で立ち上げも非常に大変だったと推察する。料金のところはその通りで、日常の買物にどこまで交通費を割くのかという点は、市民感情として非常に理解できる。そのようなことも含めて、検討を進められればと思う。</p>
中 西 委 員	<p>銭原は、茨木市最北部に位置し、高齢化が非常に進んでいる。基本的には豊能町よりも茨木市内への移動が多く、ほとんどがマイカー移動である。今は運転できるが、運転ができなくなった場合はどうするのかということに危惧している。</p> <p>バスを日常的に利用している方が地域に2人いる。来年3月で完全に公共交通が無くなった時に、その方達がどうなるのか危惧している。スクールバスを活用できる方向で考えていただきたい。</p>
葉 会 長	<p>バスを残すためには、5年後、10年後に自分たちが車に乗れなくなった時を想定し、今から少しずつ乗っていくということがどうしても必要になる。本日、公共交通をどのように支えるかという話もあったが、一番は乗ることである。それは不便だという事は重々承知しているが、自分達の将来のために今少しでも乗っておくことは非常に重要なので、この場で申し上げたい。</p> <p>これまでの意見を踏まえ、交通事業者から意見をいただきたい。</p>
花 田 委 員	<p>タクシー乗務員も減少する中、最近では、1人の乗務員を1人の輸送のために配置するだけでなく、利用を束ねて乗り合わせるという発想も必要ではないかと考えている。協力して時間を決めて乗ることも一つの方法だと思う。</p> <p>会社としては、収益性も大事であり、仮に束ねて乗っていただいたとしても黒字にはならないため、財政的な支援もお願いしたい。バスよりタクシーの方がおそらく少しはコストを抑えることが可能だと思う。</p> <p>このような議論をしながら一緒に作り上げていきたいと考えている。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
森 山 委 員	<p>当社は山間部に多く配車しているが、通院と買物の利用が多い。買物については、毎日高額なタクシーを利用することは難しいと思うので、タクシーを利用して週に何回も外出するより、例えば移動販売を利用する等、外出回数を減らすことも考える必要があるのではないかと。その上で、必要な時にタクシーを利用してもらおうといった検討が必要ではないかと。</p>
庄 司 委 員	<p>タクシー乗務員の高齢化が進んでおり、物価高により運行経費も膨らんでいる。バスに比べるとどうしてもタクシーは高額になる。何か補助があれば良いと思う。事業者として、手伝えることがあればと考えている。</p>
和 田 委 員	<p>現時点で答えは無い。経営の話を除けば乗務員の経済的環境が一番の問題になる。バス運転士は固定給であるが、タクシー運転士は歩合給であり、出来高で構成される。乗務員が参加したいと思わなければ運行されないというのが根本的な問題だと思っている。乗務員が望まない運行に就かせるには、赤字補填が必要であったり、ボランティアになってしまう。</p> <p>他地域の事例を見ていて、住民の方は100点満点を求められるが、何か捨てなければならないということも考えた上で対応を決めないといけないのではないかと感じている。</p>
葉 会 長	<p>事業者の立場から現実的な観点でのご発言であった。バスに限らずタクシーも高齢化や物価高の状況にあり、仮にタクシー車両を用いたサービスが実現しても、利用が無いと困るとのご意見だった。欲しいと言うのは簡単だが、いざ導入した時に乗らないとなると、それは単に財政的な負担だけではなく、事業者にとっても、せっかく割いた時間が地域のために活かされないということになりかねない。</p>
猪井副会長	<p>今後、2つ対応が必要である。1つは、地域にとって望ましい交通手段は現時点では分からないため、試行していくしかないということ。もう1つは、茨木市全体で最低限守らなくてはならないセーフティーネットを考える必要がある。この2つは別の次元で議論していかなくてはならない。</p> <p>セーフティーネットは、路線や運行形態という細かな議論ではなく、もう少し面的に、目的地までどの程度の時間で行ける環境を作るのか。買物だけでなく通学まで含めるか、どこまで含むのかといった議論が必要。様々な方が関わるため検討に時間が必要であり、各地域で短期の試行を進めながら、長期的なセーフティーネットの議論を進めていく必要がある。</p>

<b>議 事 の 経 過</b>	
<b>発 言 者</b>	<b>議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項</b>
葉 会 長	<p>短期の対応について、茨木市内で様々な事例を作り、他の地域の方々が悩まれた時に、参考にできる環境を作っていく必要がある。</p> <p>今回の各委員の意見を踏まえ、地域の皆さんと考え、まずは来年4月に実現していく。今ある移動を維持した上で、この地域で最低限何を守らなければいけないのか、そして茨木市全体では最低限どこまで守らなければいけないのかということを経験していかなければならない。</p> <p>これは交通事業者だけでも、行政だけでも、住民だけでもできない。この場にお集まりの皆さんや、その裏におられる地域の皆さんのご協力が必要。今後も関心を持っていただき、議論を進めていければと思う。</p> <p>本日の議論をまとめると、1つは今ある資源を活かすこと。アルプラザや山手台、彩都西まで出ることができれば路線バスを利用できるということは考えるべき点だと思う。まずは、事務局と猪井委員、私で検討を進めさせていただきたい。また猪井副会長から2点いただいたが、特に2点目のセーフティネットについて、例えば買物だけは確保、もしくは通学だけは確保など、優先順位を付けなくてはいけない時期が来るため、次回までに地域においても議論いただければと思う。</p> <p>最後に事務局から連絡事項等があればお願いしたい。</p>
事 務 局	<p>次回の会議は9月24日を予定している。詳細については、決まりしだい通知させていただく。</p>
葉 会 長	<p>本日は、膨大な情報量で紹介しきれない部分があったかもしれない。その場合、事務局に確認いただき、次回までの間に色々なことをお考えいただければと思う。</p> <p>また、第1回の開催であったため、できるだけ皆様にご発言いただいた。次回以降、年度明けに実施どう対応していくのかという、実務的な協議入りたいと思う。</p> <p><b>3 閉会</b></p> <p style="text-align: right;">(午後6時10分終了)</p>